

本研究所は、「子ども」を様々な視点から、学問的・実践的見地に基づいて研究し、本学の教育及び地域の初等教育・幼児教育・保育の充実発展に寄与することを目的として設置されました。

総合子ども学研究所 ニュースレター 第1号

発行日：2013年4月1日

<http://www.chibakeiai.ac.jp>

〒285-8567 千葉県佐倉市山王 1-9

TEL. 043-486-7111 (代表)

千葉敬愛短期大学「総合子ども学研究所」 ニュースレター第1号の刊行にあたって



所長 吉村 真理子
(千葉敬愛短期大学教授)

この度、関係機関および地域の皆様方に本研究所の活動を知っていただきたく、ニュースレターを発刊する運びとなりました。本研究所は、2009年に創設され、主な活動として、地域の方々と本学学生、教職員とが、子どもについての学びを共有し、交流させていただく貴重な機会とする『現代子ども学』公開講座(年2回)の開催の他、「夏休み子ども向け公開講座」の開催、佐倉市・八街市の「通学合宿」へのボランティア派遣、「総合子ども学研究所『実践・研究報告会』」の開催、附属幼稚園との共同研究などを行っています。

今後も、子どもをありのままに受容する姿勢を堅持しつつ、子どもをより多くの学問領域から総合的に見つめることのできる、初等教育者・保育者の育成に努め、地域に貢献してまいりたいと考えます。これまでと変わらぬご指導・ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

「総合子ども学研究所」からのお知らせ

「現代子ども学」公開講座

第8回公開講座

「環境の不都合な真実～すべての能力は環境である～」
の裏側にあるもの

日時：2013年5月21日(火) 16:30～18:00
講師：安藤 寿康先生(慶應義塾大学 文学部 教授)

第9回公開講座

いろんな育ちがあっていいんだ～親と暮らすことのできない子どもたちを支える社会的養護～

日時：2013年12月3日(火) 16:30～18:00
講師：渡井 さゆり先生(NPO法人 社会的養護の当事者参加推進団体 日向ぼっこ 理事長)

皆さまのご参加をお待ちしております！

※ お申し込みは、本学ホームページより、または上記代表電話にご連絡ください

コミュニティカレッジ New!

2013年4月、佐倉市立教育委員会社会教育課と佐倉市立白井公民館が、佐倉市立千代田小学校地域学習室*に、2年制のコミュニティカレッジを開校します。

本学は、1年次「人間学」のカリキュラム作成および講師派遣の協力をしています。

1年次：「人間学」

コミュニケーションの大切さやそのスキルを高める手法など、人と人との関わり方を学びます

2年次：「地域学」

地域コミュニティの課題、様々な地域活動の実践例、具体的な実践手法など、共に生き、支え合う地域づくりについて学びます

* 学校教育上支障のない限りで社会教育活動に利用できるよう整備された教室のこと、学校教育法および社会教育法で定められているものです。

【「現代子ども学」講義内容】

2011 年度（1 年次後期）

「現代子ども学Ⅰ」～「育つ」の視点から子どもを見つめる～

開催	月日	内容
第 1 回	10/5	ガイダンス（吉村、新田）
第 2 回	10/12	「子ども学」の内容とその必要性（吉村、新田）
第 3 回	10/19	子どもの心と身体（原子 純）
第 4 回	10/26	子どもの好奇心と創造性（伊藤 勝博）
第 5 回	11/2	子どもへのまなざし（林 孝憲）
第 6 回	11/9	絵本・子ども・美術（久保木 健夫）
第 7 回	11/16	被災体験と子どもの心（大野 雄子）
第 8 回	11/30	子どもの「育ち」(1)（新田 司）
第 9 回	12/7	公開講座事前指導他（吉村、新田）
第 10 回		第 5 回公開講座（「りんごの木」代表 柴田 愛子）
第 11 回	12/14	「東日本大震災・子ども応援プロジェクト」
第 12 回	12/21	子どもの「育ち」(2)（新田 司）
第 13 回	1/11	現代の子ども像（佐倉市立山王小学校教頭 金木 勝己）
第 14 回	1/18	赤ちゃんと言葉（竹内 アンナ）
第 15 回	1/25	まとめ（吉村、新田）

2012 年度（2 年次前期）

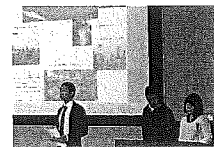
「現代子ども学Ⅱ」～「育てる」の視点から子どもを見つめる～

開催	月日	内容
第 1 回	4/11	ガイダンス（吉村、新田）
第 2 回	4/18	子育て支援（吉村 真理子）
第 3 回	4/25	虐待と子どものこころ（藤 京子）
第 4 回	5/2	保育所における家族支援（松本 峰雄）
第 5 回	5/9	かわりの中ですぐ子ども（山中 護）
第 6 回	5/16	乳幼児とおもちゃ（桑原 逸美）
第 7 回	5/23	遊びができる環境とはⅠ（清水 一巳）
第 8 回	6/20	遊びができる環境とはⅡ（清水 一巳）
第 9 回	6/27	公開講座事前指導他（吉村、新田）
第 10 回		第 6 回公開講座（お茶の水女子大学大学院 教授 榊原 洋一）
第 11 回	7/4	子どもを取り巻くことばの渦（鈴木 健一）
第 12 回	7/11	「発達障害のある子の指導と予後」（「障害者の就労を支援する会」代表 平林 計重）
第 13 回	7/18	「被虐待児を支えるということ」（子どもの虹情報研修センター研修主任 榊原 真也）
第 14 回	7/25	「人としての感性をつくる、磨く」（本学非常勤講師 松尾 忠正）
第 15 回	9/26	まとめ（吉村、新田）

第 11 回

「東日本大震災・子ども応援プロジェクト」小豆島サマーキャンプ
参加学生による発表 ～小豆島に笑顔が咲きました～

日本子ども学会「東日本大震災・子ども応援プロジェクト」小豆島サマーキャンプにボランティアとして参加した本学 2 年生 3 名が、本学学生全員に体験報告をしてくれました。



キャンプの様子を映しながら、実習で出会った子どもたちに接するのと同じように、一人ひとりの気持ちに寄り添うことを心がけたと語ってくれました。

第 12 回

「子どもの「育ち」(2) ～このとりのゆりかごを通して考える」



「子どもを育てるのは誰」なのか、熊本市の慈恵病院に設置された「このとりのゆりかご」の事例を通して、考えていきました。

新田 司

現代の子ども像

通学合宿を通して見えるもの

2011 年度の「佐倉市チャレンジ!通学合宿（佐倉市青少年センター）」にボランティアスタッフとして参加した学生が、金木先生の講義内容について、実感を持ってうかがった感想を述べました。保護者の方からも、「子どもたちはもちろん、教師になるという夢を叶えようとしているボランティア学生の皆さんにとっても、子どもを深く知る良い経験となったのではないのでしょうか」との励ましのメッセージをいただきました。



第 11 回

「子どもを取り巻くことばの渦」



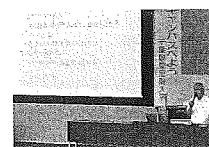
子どもたちは、氾濫することばの中で、正誤・適否の判断を迫られています。そうした現実を認識してもらえればと思います。

鈴木 健一

第 12 回

発達障害のある子の指導と予後 ～働く力を育てるためには～

2011 年、千葉公園内に障害者の就労体験や支援を目的としてカフェハーモニーを開店されました平林先生に、発達障害のある子どもたちの将来を見据えた、より具体的な指導の実践についてお話しいただきました。



【公開講座】

開催	日時	講義内容	講師
第1回	2009年11月24日	「子どもはみんなインフォメーション・シーカー」	一色 伸夫 甲南女子大学 人間科学部 総合こども学科 教授
第2回	2010年6月30日	「21世紀のこども観 —赤ちゃん学の立場から—」	小西 行郎 同志社大学赤ちゃん学研究センター 教授
第3回	2010年11月24日	「子どものウソは『嘘』か —創造的想像力を育てる大人の役割—」	内田 伸子 お茶の水女子大学 客員教授 名誉教授
第4回	2011年6月29日	「からだの成長とこころの発達 —子ども学から考える—」	小林 登 東京大学 名誉教授 / ベネッセ次世代育成研究所 所長 / CRN(チャイルドリサーチネット) 所長
第5回	2011年12月7日	「子どもの心に寄り添うとは」	柴田 愛子 「りんごの木」代表
第6回	2012年6月27日	「発達障害のある子どもたち —正しく理解し、優しくサポートするには?—」	榊原 洋一 お茶の水女子大学大学院 教授
第7回	2012年12月5日	「居場所のちから —子どものいのちに寄り添って—」	西野 博之 NPO 法人フリースペースたまりば理事長

第6回「現代子ども学」公開講座

発達障害のある子どもたち

～正しく理解し、優しくサポートするには?～

今回の講座にも、千葉県内の幼稚園や保育園の先生方、および地域の皆様方、約90名のご参加をいただき、本学2年生と教職員と一緒に榊原洋一先生のお話をうかがいました。



榊原先生のご専門である発達神経学の視点から、発達障害についてご説明いただきました。広汎性発達障害(自閉症)の方々は、顔の表情から人の感情を読み取る「顔認知」に関する上側頭回等の脳の部位に、障害を受けていることが多いとのことでした。発達障害の子どもたちはどうしても叱られがちになり、「自尊感情の低下」という二次障害が生じがちであるため、「トークンエコノミー」「タイムアウト」といった行動変容法を活用し、「できるだけ褒める」ことを実践する必要があると、榊原先生は力説されました。



第7回「現代子ども学」公開講座

居場所のちから

～子どものいのちに寄り添って～

千葉県内の幼稚園や保育園の先生方、および地域の皆様方、約60名のご参加をいただき、本学1・2年生と教職員380名と一緒に西野博之先生のお話をうかがいました。



「日本の子どもたちが自信を持っていないのは、『勉強もスポーツも、何でも完璧にできた方がいい』『友だちがたくさんいないと大変』というような「不安」を抱える大人が、子どもの先回りをして、子どもが成長するチャンスである失敗体験を奪ってしまっているからではないか」と語りかける西野先生。

最後に、先生の肩に手を置いて、3,940gのご長男を自然分娩された奥様のお話を通して、私たちが忘れてしまいがちな「生まれてくれてありがとう」の気持ちの大切さについても、お話しいただきました。



夏休み子ども向け公開講座



今回で7年目を迎えた本講座は、「地域中核のコミュニティカレッジ」を目指す本学が、佐倉市教育委員会より「市民公開講座事業」の委嘱を受けて、実施してきたものです。

2012年8月20日から24日まで5日間開催し、のべ100人の子どもたちが受講しました。講座は、「地域の子どもたちが有意義な夏休みを計画する上で活用できる講座」というコンセプトの下、理科「たのしい理科実験」・国語「読書感想をまとめよう」・音楽「みんなで箏をひいてみよう」・図画工作「夏休みの課題（ポスターや風景画等）の製作」・英語「楽しくはじめようジュニア・イングリッシュ」の5科目で構成し、製作活動や体験学習を多く取り入れました。

本学学生ボランティアも、講師と共に、子どもたちの理科実験や箏演奏の支援に当たりました。

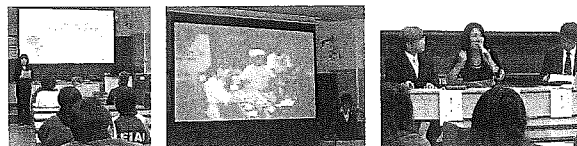
通学合宿（佐倉市・八街市）への 本学学生のボランティア参加



通学合宿の目的は、高学年の子どもたちが親元を離れ、地域の施設において生活体験を行うことにより、自主性・協調性を高め、心豊かでたくましく生き抜く力を育むことです。家庭にとっても一定期間親子が離れて生活することで、日頃の親子関係を見直し、家庭の教育力を向上させる機会となることも目指しています。

この通学合宿に、小学校教諭を志す本学の学生がカウンセラー（佐倉市）およびリーダー（八街市）として参加。両教育委員会の方々からは、本学の学生たちが熱心で、互いに相談・工夫しながら活動していたことについてお褒めのことばをいただきました。

総合子ども学研究所『実践・研究報告会』



2012年10月27日、千葉敬愛短期大学 KEIAI ☆フェスタ 2012 の中で、総合子ども学研究所「実践・研究報告会」を開催しました。

吉村真理子所長による「総合子ども学研究所」活動報告ののち、佐倉市中央公民館主催の通学合宿に関する学生たちの発表が、子どもたちと一緒に料理をしているスライドなどを交えながら行われました。

また、本学附属幼稚園の先生より、子どもたちが普段している遊びについての報告を受け、指定討論者である清水一巳所員が「遊びを通してみる子どもの姿」と題して、講演を行いました。

最後に、新田司所員から次年度への抱負と参加者への謝辞が述べられ、シンポジウムを終えました。

佐倉市青少年育成市民会議 30 周年記念事業 「ぼくの声、私の声、みんなの声を未来へ！」 本学学生も発表参加



2012年10月21日、佐倉市各地区住民会議、PTA、青少年相談員、保護者ら関係者120名が参加し、佐倉市立中央公民館において、佐倉市青少年育成

市民会議 30 周年記念事業「ぼくの声、私の声、みんなの声を未来へ！」が開催されました。

小中学生による少子化や家族のコミュニケーションの問題についての発表の後、教員や保育士を目指す本学学生4名も、自らの課題である就職について発表しました。

また、最後に、吉村所長がコーディネーターを務め、「青少年が育つ環境づくりのために地域が果たす役割」について、シンポジウムを行いました。

総合子ども学研究所 ニュースレター 第2号

本研究所は、「子ども」を様々な視点から、学問的・実践的見地に基づいて研究し、本学の教育の充実発展を図ると共に、地域の教育・保育に寄与することを目的として設置されました。

発行日：2014年4月1日
http://www.chibakeiai.ac.jp
〒285-8567 千葉県佐倉市山王 1-9
TEL. 043-486-7111 (代表)



「環境と子どもの発達」の開催

地域の皆様と、子どもについての学びを共有し、交流させていただく貴重な機会となることを願い、年に2回開催しています。

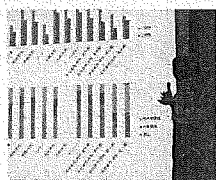
第8回 2013年5月21日(火)

「環境の不都合な真実～すべての能力は環境である～」 の裏側にあるもの

講師：安藤 寿康先生（慶應義塾大学 文学部 教授）

千葉県内の幼稚園や保育園の先生方、および地域の皆様方、約60名のご参加をいただき、本学1・2年生と教職員380名と一緒に安藤先生のお話を伺いました。

学力や性格、習慣などが、遺伝と環境にどの程度影響を受けているかを、自然科学や社会科学の一つのアプローチとして世界的に応用されている「双生児法」を用いてご説明いただきました。



「行動遺伝学の3原則」

1. 行動にはあまねく遺伝の影響がある
2. 共有環境の影響がほとんどみられない
3. 個人差の多くの部分が非共有環境から成り立っている

第9回 2013年12月3日(火)

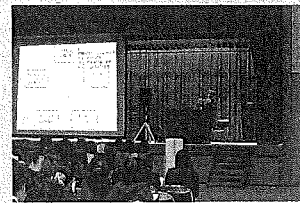
「子ども虐待～家族への支援～」

講師：渡邊 直先生（千葉県中央児童相談所 主席児童福祉司兼調査課長）



暴力や暴言を伴うしつけのバッドサイクルから抜け出し、肯定的で具体的な表現を用いるしつけのグッドサイクルへと移行することの重要性について、渡邊先生にお話しいただきました。

非暴力のしつけを行うためには、「Calm（穏やかに）・Close（近づいて）・Quiet（静かに）」という環境（状況）を作ることが大切であるということを理解するために、参加者全員で、背中合わせで話すワークを行いました。



皆さまのご参加をお待ちしております！

※ お申し込みは、本学ホームページより、または上記代表電話にご連絡ください。

※ 本学ホームページの総合子ども学研究所内に「現代子ども学公開講座（第1～5回）」講演集録第1号（2012年3月刊行：PDFファイル）を掲載しております。是非ご覧くださいませ。

第10回公開講座

「科学する心と脳の発達～子どもの学びと育ちを支える大人ができること～」

日時：2014年5月13日(火) 16:30～18:00

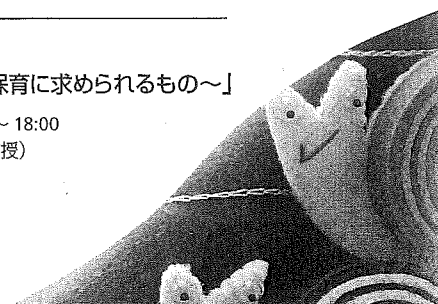
講師：小泉 英明先生（株式会社日立製作所 役員待遇フェロー）

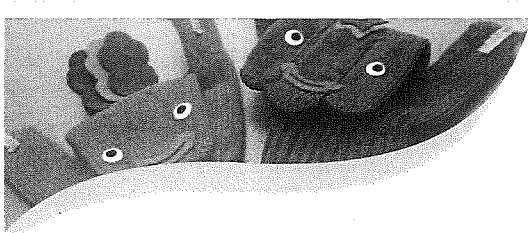
第11回公開講座

「保育の中の遊び論～今、遊びの保育に求められるもの～」

日時：2014年12月2日(火) 16:30～18:00

講師：加用 文男先生（京都教育大学教授）





「佐倉市コミュニティカレッジさくら」への事業協力

コミュニティカレッジさくらは、自らの居住地域での人と人のつながりを大切に、地域で共に生活し、見守り、支え合い、日常生活で声を掛け合いながら、地域づくり（防災・防犯、少子高齢化、まちの活性化等のまちづくり）に参加いただける市民の学習の場として開設されました。

市民協働の取り組みの一つとして、学習者一人ひとりの持つ、技術・知識・能力を高め、次世代に継承していただくだけでなく、地域リーダーとして多種多様な取り組みを、佐倉の様々な地域において実践いただくことにより、社会の人と人との絆を高め、お互いを支え合う地域社会の形成を目指します。

入学資格

- (1) 佐倉市内に在住、在勤されている 18 歳以上の方
- (2) 2 年間、継続して通学できる方

学習課程

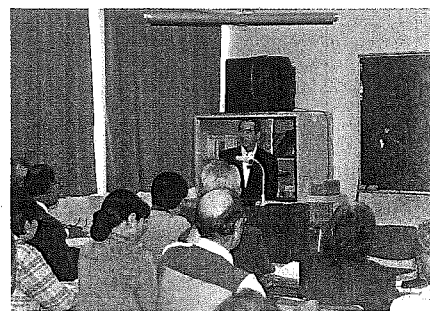
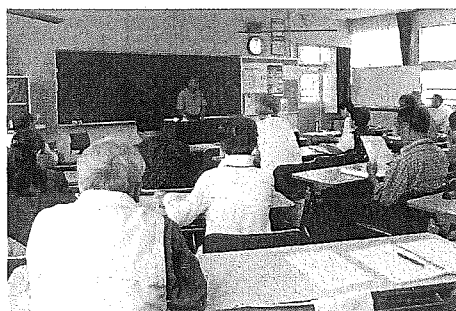
- (1) 1 年次「人間学」（基礎講座）
地域活動を行うために必要な折衝能力を培うとともに、地域課題の発掘方法や、私たちを取り巻く様々な社会環境について広く学びます。
- (2) 2 年次「地域学」（実践講座）
地域で主体的に課題解決に向けた実践活動を行うため、地域の各種資源（人材等）を活かした、様々な地域活動例、具体的な実践手法など、共に生き、支え合う地域づくりについて学びます。

学習会場

佐倉市立千代田小学校 学習室
千葉県佐倉市吉見 553 番地

お問い合わせ：

- 佐倉市教育委員会 社会教育課
Tel: 043-484-6189
- 佐倉市立白井公民館
Tel: 043-461-6221



カリキュラム紹介

1 年次「人間学」 本学担当講義

6/22	伊藤 勝博	記念講演『地域を生き、地域で生きる』
6/29	吉村 真理子	よりよく「聴く」ためには～傾聴の技術～
7/13	大野 雄子	よりよく「聴く」ことへの「責任」～守秘義務と個人情報の扱い～ 素直な自己表現～アサーション・トレーニング～
7/27	吉村 真理子	よりよいコミュニケーションとは (1) グループエンカウンター体験、(2) コラージュで自己表現
9/14	桑原 逸美	異年齢社会の構造と課題 (1) 乳幼児を取り巻く社会環境
	鈴木 健一	異年齢社会の構造と課題 (2) 小・中学生が抱えているもの
9/28	山中 護	異年齢社会の構造と課題 (3) 学校からみえる地域社会の現状と課題
10/12	松本 峰雄	身近な人権～ひとを人として認める地域とは？～
10/19	吉村 真理子	心地よいコミュニケーション (1) DESC 法体験、(2) リフレーミング法体験
11/9	藤 京子	家庭・家族と地域の社会的役割 (1) 家族形態の変遷～明治時代から現代まで～ (2) 子どもに関する社会的問題～家族の抱える問題虐待～
11/16	新田 司	家庭・家族と地域の社会的役割 (3) 「このよりのゆりかご」の事例を通して考える
3/15	伊藤 勝博	「地域が元気になる」実践方策～班ごとの研究課題の経過発表～

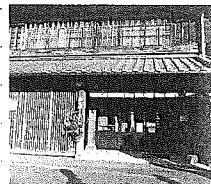
【用語解説】

- * アサーション：お互いを尊重しながら自己表現をするコミュニケーション技法のひとつ
- * グループエンカウンター：出会いのためのグループ活動
- * コラージュ：切り貼り絵
- * DESC 法：対話のための土俵作り (Describe: 描写、Explain: 説明、Specify: 提案、Choose: 選択の頭文字から)
- * リフレーミング法：物事の見方の枠組みを変える

コーディネーター、事務局等による活動内容

6/22	1 年次コミュニティカレッジについて（クラス班編成、自己紹介）
9/28	異年齢社会の構造と課題 (4) 学校の現状と子どもたちの学び
10/12	研究事例『地域が元気になる』実践方策～班の研究課題を見つつけ出そう～
11/16	実践・現場から 地域を元気にする実践コミュニティビジネス NPO 活動 等
12/14	実践・現場から 福祉ボランティア、まちづくり協議会等の地域活動 コミュニティカレッジの目指すもの
1/18	バス見学会 NPO 小野川と佐原の町並みを考える会、 佐原おかみさん会活動状況 バス見学会 佐原の町並み散策
2/8	「地域が元気になる」実践方策 研究発表準備
(適宜)	各班に分かれての自主学習 (4 回実施)

* 「コーディネーター」は、カレッジ生の活動における支援・助言者です。



佐原の町並み



千葉敬愛短期大学附属幼稚園とのかかわり



大人のあそびへのまなざし～子どものあそびと大人のかかわり～

本研究では、幼稚園・保育所と家庭との連続性を重視した環境構成を可能とするための基礎調査として、子どもたちにとって重要な人的環境である保護者に、自らの遊び体験および子どもとの遊び体験を尋ねるアンケート他を実施しました。

アンケートは、2013年7月、千葉敬愛短期大学附属幼稚園の保護者539名にご協力いただき実施し、265部（回収率：49.2%）の回答を得ました。

保護者が小学校入学以前によくおこなった遊び

遊び	%
ままごと	19.6
お絵かき（ぬりえ）	19.2
お人形さんごっこ	9.2
かくれんぼ	8.0
折り紙	5.6
虫取り	5.2
その他	33.2

今回は、分析結果の一部をご紹介します。

まず、保護者が小学校入学前に行っていた遊びに関しては、家庭用ゲーム機での遊びが、「その他」の中の1.2%程度しかなく、当時の子どもたちの環境や興味・関心が反映されている資料として興味深い結果となりました。

一方、子どもと一緒に遊ぶ遊びに関しては、主に室内で行う遊びが上位になりました。「子どもの頃から知っている」が8割強と圧倒的に多く、子どもと一緒に遊ぶ遊びは、親自身が経験した遊びが反映していることが予想されます。

引き続き、下記の幼稚園・保育所の保護者の方々にもアンケートへのご協力をいただき、現在、様々な視点から分析を進めています。ご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。

臼井幼稚園（佐倉市）、四街道旭幼稚園（四街道市）、大竹保育園（大網白里町）、聖母保育園・銚子保育園・銚子中央保育園・外川保育園（銚子市）、いすみ市立中根保育所（いすみ市）、館山市立中央保育園（館山市）

子どもと一緒に遊ぶ遊び（複数回答）

遊び	%
お絵かき（ぬりえ）	35.8
折り紙	23.8
サッカー（ボール蹴りなど）	20.0
ままごと遊び	18.9
あやとり	14.0
お人形さんごっこ	12.8
追いかけ鬼	12.8
かくれんぼ	12.5
携帯用ゲーム機での遊び	10.6



佐倉市立美術館との連携

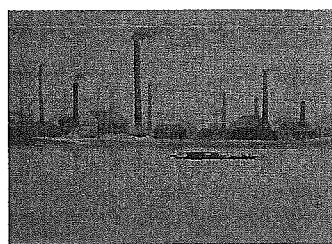


佐倉市立美術館

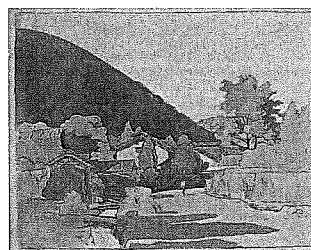
今年度、美術館・学校連携事業の一環として、同館が管理・運営し、佐倉市教育センターが所蔵する芝千秋の作品（教材用）を実際の教育活動に活用する事業についての協力依頼があり、本学の「文章表現法」内の鑑賞文の学習で、同氏の絵画作品を使わせていただきました。

作品に直接触れることができたことで、驚きや新たな発見が生まれ、学生は興味を抱いて真剣に鑑賞し、文章化に意欲的に取り組んでいました。全て100年も前の作品ですが、現代の子どもたちにも通じるような題材で繊細に美しく描かれている絵であったこと、一人一人が気に入った作品を手にとって間近に鑑賞できたことが、効果的な学習につながったと考えられます。

今回の鑑賞文の指導に関わり、芝千秋の作品をお貸しくださった佐倉市立美術館と、作品の選定等でご助言いただき、いろいろと取り計らってくださった同館学芸員の本郷かおり様に感謝申し上げます。



（佐倉市教育センター所蔵）



しげ せんしゅう
芝千秋（1877年～1956年）

京都に生まれ、日本画を学んでいたが、新しい日本画を目指し、浅井 忠に洋画を学んだ。晩年は装飾的な画風に移行。また、京友禅染の老舗「千總」で下絵を制作するなど技工として勤務した。



「夏休み子ども向け公開講座」の開催

「夏休み子ども向け公開講座」は、本年度で8年目を迎えました。この公開講座は、佐倉市の「市民公開講座事業」の一環であり、本学が委嘱を受けて実施してきました。

今年度も昨年度と同様に“地域の子どもたちが有意義な夏休みを設計する上で活用できるもの”をコンセプトにしました。

その内容は、【国語】「読書感想文を書くために」【図画工作】「夏休みの課題（ポスターや風景画等）の製作」【音楽Ⅰ】「みんなで箏を弾いてみよう」【音楽Ⅱ】「手作り楽器を作っておそぼうー音あそびするものこの指と〜まれ」【理科】「楽しい理科実験」の5講座で構成し、製作活動や体験的学習を取り入れました。



国語



図画工作



音楽Ⅰ



音楽Ⅱ



理科

佐倉市・八街市の「通学合宿」へのボランティア参加



平成25年度は、佐倉市に12名（9・10月）、八街市に14名（6・9月）の学生ボランティアを派遣しました。

「佐倉市チャレンジ通学合宿」では、5泊6日の最後の夕飯時のお楽しみ会の進行を学生たちが任せられ、参加者同士の心の交流に大変効果的であったとのこと言葉をいただきました。

学生の感想

期待と不安を抱えての参加でしたが、今後子どもたちと関わることになる自分自身に、多くの変容をもたらしてくれた良い機会でした



通学合宿の目的

子ども：親元を離れ、異年齢集団で生活体験を行うことにより、自主性・協調性を高め、心豊かでたくましく生き抜く力を育む。

家庭：一定期間、子どもと離れて生活することで、日頃の親子関係を見直し、家庭の教育力向上を目指す。

地域：地域の方々や保護者が、共に子どもの生活体験活動にかかわることにより、地域の繋がりを深め、地域の教育力の更なる向上を目指す。

志津地区青少年育成住民会議「第18回トーク大会」への参加



平成26年2月15日（土）、大雪にもかかわらず小・中学校PTAを主体とした150名の参加者を迎え、志津コミュニティセンターで行われました。

まず、志津地区の一般的な4人家族を想定し、①親子とも忙し過ぎる、②比較される（不平等感）、③親が指示しすぎる（頭ごなしの指示）、④自分を見てくれない（プロセスよりも結果）などの問題点を含めたアフレコ形式の劇が演じられました。

その後、グループに分かれて、家族のやりとりの問題点を挙げ、次にそれらの問題点を解消するための手立てについて、話し合

いが行われました。4月から小学校の教壇に立つ本学の4名の学生もグループ討論に参加し、保護者の方々からは学生に対し、温かい励ましと期待を寄せるお言葉もいただきました。

最後に、本学の鈴木健一専任講師が、通学合宿等の学生にとって有為な機会をいただいていることに感謝の言葉を申し上げ、「心が満たされる子どもを育む」ための言葉かけのタイミングや内容などを事例的に話しし、この会の益々のご発展を祈念して話を閉じました。

